

「主を信じる信仰による義」 創世記 15：1－6

I 主の励ましの言葉

「これらの出来事後、主のことばが幻のうちにアブラムに臨み、こう仰せられた。『アブラムよ。恐れるな。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは大きい。』：1。

1. 「これらの出来事後」。アブラムは、欲張りのロトを見捨てずに、愛をもって彼を助け出し、ソドムの王の所有物も取り戻した。ソドムの王は、「財産はあなたが取って下さい」と言った。しかし、アブラムは、神に栄光を帰さないソドムの王の所有物から何一つ取らなかった。彼は、欲張りの選択ではなく、栄光を神に帰す選択をした。神は、それらすべての出来事をすべて見、知っておられた。そこで彼に語り掛けられた。これは、私達への励ましである。私達は、正しい事を選ぶ時、世的な価値観、世の計算では、損をすることがある。しかし、神は、すべてを知り、ご覧になっており、神の方法で報いて下さる事を忘れてはならない。
2. 「恐れるな」。14章で戦った敵の復讐を。今も私達に主は、語り掛けて下さる。「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから」(イザヤ41：10)。
3. 「わたしはあなたの盾である」。盾とは、戦いにおける「守り」である。アブラムや私達の知恵と力が盾なのではなく、主御自身が私達の盾、守りとなって下さるので、決して恐れる必要はないのである。4. 「あなたの受ける報いは非常に大きい」。主の喜ばれない選択をせず、自分の罪を悔い改め、一步一步神に従う者に、そして私達に、主の時に、神の方法で報いて下さる。主ご自身、そして主がいつも共におられ、守り導いて下さる事こそ、最高の報いである事を忘れてはならない。

II アブラムの主への正直な言葉。私達も正直に神に祈り、心を注ぎ出そう。「神、主よ。私に何をお与えになるのですか。私には子がありません。私の家の相続人は、あのダマスコのエリエゼルになるのでしょうか。さらに、アブラムは、『ご覧ください。あなたが子孫を私に下さらないので、私の家の奴隷が、私の跡取りになるでしょう』と申し上げた」：2, 3。12：3では「地上のすべての民族は、あなたによって祝福される」と神の約束があり、13：16では、「わたしは、あなたの子孫を地のちりのようにならせる」と神からの約束の御言葉を受けていた。しかし、時が経っても、彼に子は与えられていなかった。

III 主のお答え。「すると、主のことばが彼に臨み、こう仰せられた。『その者があなたの跡を継いではならない。ただ、あなた自身から生まれ出て来る者が、あなたの跡を継がなければならない。』そして、彼を外に連れ出して仰せられた。『さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。』さらに仰せられた。『あなたの子孫はこのようになる。(アブラムは、BC2、090年：75歳。サラ：65歳。カランを出る。12：4。BC2、079年：86歳。イシュマエル誕生。16：16。この神の約束が与えられて、現在、約4、000年後、この約束は成就している。神の約束は、アブラムの子孫の主イエス様を通して、主を信じる神の民は、星の数ほどになるという内容。現在、世界中に主を信じる神の民が起こされている)』：4, 5。

IV 神の約束の御言葉へのアブラムの応答。「そんなことはあり得ません、信じられません」という応答もできた。しかし、「彼は主を信じた。主はそれを彼の義と認められた」：6。この短い事実の言葉

が、これまでの事を中心であり、クライマックス。この「信じた」という言葉には、私達がしばしば用いる「アーメン」という言葉と同じ語根の動詞が用いられている。彼は、神の明かされたご計画に対して「アーメン（真実、同意するの意）」と宣言した。神のみこころとご計画に同意した。この御言葉の中に、アブラムの神への信頼の思いをみる。どんなことがあっても、あなたのなさることに間違いはありません。数々の障害や課題があっても、全能の神であるあなたを信頼し、あなたの御言葉を信じます。喜んであなたのご計画に関わらせていただきます。ここに、神とアブラムとの信頼関係、深い交わりの「友情」がある。主は、ご自身の御計画を愛する友に打ち明けるように語られた。そうした神の優しさにアブラムは包まれている。神との深い交わり。神は、私達とも、深い交わりを求めておられる。主を信じるとは、神と深い交わりの関係に入れられる事。何という恵み！

V アブラムが「主を信じ、義（神の前に正しい）と認められた（神との深い関係に受け入れられた）」事は、すべての人の罪の為に十字架で死なれ、三日目に復活された主を信じる信仰による救いの恵みを私達にもたらそうとなさる、神のご計画の準備でもあった。『彼（アブラム）の義とみなされた』と書いてあるのは、ただ彼のためだけではなく、また私たちのためです。すなわち、私たちの主イエスを死者の中からよみがえらせた方を信じる私たちも、その信仰が義とみなされるのです。主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです」ローマ4：23-25。主が私達に求められるのは当時と同じように主を信じ信頼する信仰である。もし神の救いの条件が、一生涯、何一つ悪い事をせず、悪い思いを持たず、完璧に正しい行いをした人なら、この世の人々で、義と認められる人、救われる人は、一人もいなかった。私達は（アブラムも）、皆、心に罪、悪い思いを持ち、過ちを犯す罪人である。神は、その罪人である私達を心から愛され、私達が滅びる事を望まれず、愛するひとり子のイエス様をクリスマスに、この世に送り、御子イエスが私達の罪をすべて負い、十字架で身代わりに死なれ刑罰を受け、私達の罪を完全に償って下さった。それ故に、その御子イエスを「私の罪の為に十字架で死なれ、三日目に復活された救い主、主、神」と信じる信仰による救いが、私達に与えられるのである。そして、その主を信じる信仰は、神に私達自身が受け入れられる（義とされる）恵み、主である神に愛され神を愛する神との交わりの関係に入れられる大きな恵みである事を覚えない。「神は真実であり、その方のお召によって、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられました」Iコリント1：9。「私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです」Iヨハネ1：3。御父および御子との生ける交わりから、神の喜ばれる行い、人との交わりが生まれる。

「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることをないためです。私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行い（神の喜ばれる行い）に歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです」エペソ2：8-10。

至れり尽くせりの神の恵みを心から感謝します。